

学位論文執筆経験談

平成26年3月修了生

元：芸術系教育講座 現：武蔵野市立本宿小学校 主幹教諭 **井ノ口 和子**

はじめに

- ①自己紹介
- ②入学から現在までの略歴
- ③なぜ 私がここで話すのか

1. 博士課程入学まで

- (1) 博士課程！ 私は何をしたいのか…
 - ・「仕事のため？ 就職のため？ お給料が上がるため？」
 - ・「好きなのです」
- (2) 入試 そして 入学
 - ・「私と一緒にやっていただけますか？」
 - ・「あなたは何を研究したいのですか？」

2. 希望に満ちた日々

- (1) 学びの環境に身を置く幸せ
 - ・「今 ここにいられることを とてもしあわせに思います」
 - ・「理論から実践へ 実践から理論へ … これが私の研究です」
- (2) 実践的研究の意味の再認識
 - ・「そうだったのか…！」
 - ・「学校現場での実践って もしかしたら すごいことかもしれない」

3. 苦しい日々 言い訳の日々

- (1) 仕事との両立
 - ・「この仕事が終われば…」
 - ・「無理はしないでね」「身体を壊しちゃうよ」… 「でも、これはやってね」
- (2) 体力・気力・財力 そして 支えてくれる人
 - ・「とにかく眠い」
 - ・「身体を壊したら 何もできない」

4. 指導していただいた先生

- (1) 主指導の先生と副指導の先生
 - ・「元気ですか？ 元気そうでよかった」
 - ・「一日でも休んではいけません 20分でも、15分でも毎日続けなさい」
 - ・「貴女にしか書けない論文を」
- (2) 講座の先生 学部時代の先生 一度だけお会いした先生
 - ・「いつでも研究室にいらっしゃい」
 - ・「今だからわかることがあるはずですよ」
 - ・「あなたの研究はとても意義あるものです」

5. 明日のことはわからない

- (1) 今 できることを 今 やる
 - ・「一步一步進むしかない！」
 - ・「とにかく 書いてみないと 先には進まない」
- (2) 三重苦…？ 四重苦…！
 - ・「まさか！ そんな！ どうして？」
 - ・「いえいえ 私は三重苦です」

6. 論文提出

- (1) 謙虚でなければならない しかし わがままでなければ続かない
 - ・「2時間休暇をいただきます」
 - ・「出します！」「書きます！」
- (2) あのと き ちゃんとやっていたら…
 - ・「あれ？ あのデータはどこに保存してある？」
 - ・「この引用 どこからだったっけ？」

7. 博士号の学位はゴールではない

- (1) 完璧な博士論文は仕上がらない（あくまでも私の場合です）
 - ・「『おめでとう』とは言われたけれど…」
 - ・「もっと考察が深められたのに… どうしてここでやめちゃったんだろう」
- (2) ここから始まる研究
 - ・「また投稿論文の季節が巡ってきた…」
 - ・「博士論文を出したはずなのに… また同じことやっているような気がする」

このレジメを書いていて、改めて博士課程に入学し、博士論文を執筆した時間がどんなに幸せだったのかを思い出しました。

入学当時に思い描いていたような論文に仕上がったとは言えません。博士号の学位をいただいたものの、「みっともなく」「情けない」自分を再認識することになりました。それでも、やっぱり「書いてよかった」と思えます。博士号を取れたことが幸せなのではなく、4年間研究を続けてこれたことが幸せだったのだと思います。

今回のお話することは、私だけの執筆談です。これまで学位を取られた先輩方、それぞれに、そしてここに集う皆さんそれぞれにストーリーがあるのだと思います。

あきらめないこと、やめないこと それだけが唯一の博士論文提出の秘訣です。